



TITLE:

オカヤドカリ類(甲殻類, 異尾類)幼若個体が和歌山県白浜町に所在の京都大学瀬戸臨海実験所"北浜"で2015年に最長期間出現

AUTHOR(S):

久保田, 信

---

CITATION:

久保田, 信. オカヤドカリ類(甲殻類, 異尾類)幼若個体が和歌山県白浜町に所在の京都大学瀬戸臨海実験所"北浜"で2015年に最長期間出現. 南紀生物 2016, 58(1): 97-98

ISSUE DATE:

2016-06-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/216039>

RIGHT:

発行者の許可を得て登録しています.

南紀生物, 58(1): 97-98, 2016

## オカヤドカリ類（甲殻類，異尾類）幼若個体が和歌山県白浜町に 所在の京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”で2015年に最長期間出現

久保田 信\*

Shin KUBOTA : Longest appearance of juveniles of *Coenobita* spp. (Crustacea : Anomura)  
in 2015 at “Kitahama”-beach in front of the Seto Marine Biological Laboratory,  
Kyoto University in Shirahama Town, Wakayama Prefecture, Japan

### はじめに

オカヤドカリ類の自然分布の北限にあたる和歌山県白浜町沿岸では、成長・成熟個体が通年は夏から秋にかけて出現する（久保田, 2011a, 2012 a-c, 2013, 2015a）。一方、殻長数 mm 以下の微小な貝殻に入った幼若個体は、白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”で秋から見つかることがある（紀伊民報, 2006；久保田, 2011b, 2015b）。今回，“北浜”でこれまでで最長期間のオカヤドカリ類の幼体の出現が見られたので報告する。

### 材料と方法

京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”船着き場の石組の西側に沿った幅 50 cm, 長さ約 10 m の範囲を調査区域（砂浜）として、2015 年の 1 月 17 日から 12 月 17 日まで、ほぼ毎日、昼間に約 1 時間の間に 3 度の間隔をおいて、計 15 分間、オカヤドカリ類の出現数を目視でカウントした。調査初期に発見できた個体は、エタノール 100% 中に保存し、遺伝子解析用のサンプルとした。オカヤドカリ類は国指定の天然記念物なので、この調査は県と町の許可（指令文第 120 の（3））を得て行なった。



図 1 京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”へ2015年9月10日に出現したオカヤドカリ類の複数の幼若個体（遺伝子解析用サンプルとして宿貝から取り出し、スケール1目盛は1mm.

\* 〒 649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459 京都大学フィールド科学教育研究センター 瀬戸臨海実験所  
Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Shirahama 459,  
Nishimuro, Wakayama 649-2211, Japan  
e-mail: kubota.shin.5e@kyoto-u.ac.jp

## 結果と考察

2015年には今までの初出現（久保田, 2011b, 2015 b）よりも約2箇月も早い8月30日に初めてこの類の微小個体の少数の出現（11個体）が見られた。その日以降、9月24日までに、毎日のように、遺伝子サンプル用にオカヤドカリ類を固定した。その影響があるにもかかわらず、ほぼ毎日、この調査区に、通常10個体以下の少数個体が出現した。最多は17個体で、9月4日と9月10日に出現した（図1）。この約1ヶ月の期間中の累積出現個体数は123個体となった。

この後はしばらくの休止期間をとり、遺伝子サンプル用にはしないで、2015年10月9日より同様の調査を再開した。この日以降も11月下旬まで、ほぼ毎日のように、少数個体（10個体以下が通常だが、11月4日と11月12日だけは14個体ずつ）が出現した。この約2ヶ月間における累積出現数は127個体となった。

12月に入っても、毎日ではないが少数（1-4個体）の出現が12月17日まで見られ、この間の累積出現数は16個体となった。しかし、2016年12月にはまったく出現が見られなくなった。

以上の約1年間にわたる調査結果から、オカヤドカリ類の幼体の出現（累積総数266個体）が、2015年には8月30日から12月16日まで続行し、これまでで最長期間の約3.5ヶ月間となった。しかし、前回と同様で、成長したオカヤドカリ類は当該調査区域や北浜全体では昼間は全く出現が見られなかった。

## 引用文献

紀伊民報. 2006: 国の天然記念物オカヤドカリが最多

北限近くの白浜過去10年で夏の高水温が影響か.  
11月12日付1面.

久保田 信. 2011a: ムラサキオカヤドカリ（甲殻類、異尾類）の海岸での本州初の幼生の放出の確認. 日本生物地理学会会報, 66, 253-256.

———. 2011b: オカヤドカリ類（甲殻類、異尾類）の幼体を京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”で2011年秋季に再発見. 瀬戸臨海実験所年報, 24, 49-50.

———. 2012a: ムラサキオカヤドカリ類（甲殻類、異尾類）の越冬個体を京都大学瀬戸臨海実験所“南浜”で2012年春に再発見. 瀬戸臨海実験所年報, 25, 36-38.

———. 2012b: オカヤドカリ類（甲殻類、異尾類）の和歌山県白浜町番所山付近への出現. 日本生物地理学会会報, 67, 209-213.

———. 2012c: オカヤドカリ類（甲殻類、異尾類）の和歌山県白浜町における初秋季の出現時刻. 日本生物地理学会会報, 67, 215-217.

———. 2013: ムラサキオカヤドカリ（甲殻類、異尾類）の和歌山県白浜町海岸での幼生放出記録. 日本生物地理学会会報, 68, 121-123.

———. 2015a: 和歌山県白浜町の定点における2014年のオカヤドカリ類（甲殻類、異尾類）の出現—新参と古参の比較. 日本生物地理学会会報, 70, 245-247.

———. 2015b: 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に長期間出現したオカヤドカリ類（甲殻類、異尾類）の幼若個体. 南紀生物, 57 (1), 48-49.